State of the art

クローン病合併癌の診断と治療

「クローン病合併癌の診断.治療の現況と課題]

副病院長

杉田 Akira SUGITA 小金井一降1) Kazutaka KOGANEI

辰巳健二1) Kenji TATSUMI

二木 Ryo FUTATSUKI 黒木博介1) Hirosuke KUROKI

山田恭子1)

荒井勝彦1)

福島恒男2)

Kvoko YAMADA

1) 横浜市立市民病院炎症性腸疾患科

2) 松島クリニック

※編集部註:本稿は2017年7月に執筆されました。

Summary

▶ ローン病に合併する悪性腫瘍として消化管では食道癌、 胃癌、小腸癌、大腸癌があげられ、これらのうちで小腸 癌、大腸癌は一般人口に比べて多い。小腸癌の合併は稀であ るが、相対危険度は非常に高く、早期診断は困難である。大 腸癌は欧米では結腸癌が多いが、本邦では痔瘻癌を含む直腸 肛門管癌が多く、長期経過例が増加した近年、徐々に増加 し、進行癌で発見されることが多いために予後は不良である。

現状では狭窄症状の進行、下血などの臨床症状の変化に留意 し、癌合併を念頭に置いて積極的な細胞診、組織診が必要と 考えられる。厚生労働省「難治性炎症性腸管障害」に関する調 査研究班で作成したクローン病に合併した直腸肛門管癌の癌 サーベイランスプログラムに基づいて診断を行うとともに、その有 用性をさらに多数例で検証していくことが重要である。

Key words

♪クローン病 ♪悪性腫瘍 ♪癌サーベイランス

はじめに

クローン病に合併する悪性腫瘍として消化管では食道 癌、胃癌、小腸癌、大腸癌、腸管外悪性腫瘍として悪性リ ンパ腫, 白血病, 扁平上皮癌(皮膚癌), 胆管癌, 肝臓癌な どがあげられている。消化管悪性腫瘍のうち、小腸癌、大 腸癌は有意に多いと報告され¹⁾²⁾,また,炎症性腸疾患に 対して長期に使用されている免疫調節薬や抗TNFα製剤 による発癌への関与の可能性も検討されている。

近年、本邦ではクローン病患者が増加して2014年に 42.397名と報告され、また長期経過例も増加して悪性腫 瘍合併例が増加していると考えられる。

本項では合併頻度の高い小腸癌,大腸癌(痔瘻癌)の詳細 は別項に譲り、本症に合併する悪性腫瘍の概要と診断、治 療の現況と課題を述べる。

クローン病に合併する悪性腫瘍

消化管悪性腫瘍と消化管外悪性腫瘍に分類する。

1. 消化管悪性腫瘍

クローン病60,122名を対象としたmeta-analysisでは 食道癌, 咽頭癌, 胃癌発生の相対危険度はそれぞれ, 1.45 (p = 0.81), 0.59 (p = 0.42), 1.77 (p = 0.08) σ δ δ ,



